

# スキップ

No.18

2011年9月4日

J R 東海労働組合

秋の闘いシリーズ③

## ATS-PT

## 保安装置ではなく不安装置？

## 会社は「1年もすれば慣れるだろう」というけれど！

在来線運転士の皆さん！1月11日からATS-PTが導入されましたが、「何かあったら心配」「不安の中で運転している」などという意見が圧倒的多数を占めています。本来、保安装置は安心して運転できるためのバックアップ装置であるべきです。しかしPTは、速度違反をしなくても、ほんの一瞬でも取扱いを誤った場合、容赦なく列車を停止させます。運転士はそれによって乗務停止などのペナルティーが課せられます。異常時取扱いも従来よりかなり複雑になりました。私たちが求めているのは、JR東日本と同様のATS-Pです。

またPT導入後、名古屋近郊を中心に列車の慢性的遅延が発生し、それが運転士にさらなる負担としてのしかかっています。

ある会社幹部は「1年もすれば慣れるだろう」と無責任な発言を行ったと聞きます。この発言をどう思いますか？

他労組組合員の皆さん！JR東海ユニオン・国労指導部はPTに関する組合員の生の声と会社幹部の発言を聞き、どのように問題解決のために動いているのだろうか？

### ATS-PTに関する要求！

1. パターン速度超過時、非常ブレーキではなく常用ブレーキに改善せよ。
2. 運転台にパターンが認識できるインジケータの設置せよ。
3. ATS-PT用TR地上子の増設せよ。
4. ATS-PTによる事象で停車した場合、事故・ミス扱い、乗務停止を行わないこと。

**私たちは職場の声を交渉に反映させ**

**改善に向けて取り組みます！**

運転士の「生の声」を反映させて  
安心して運転できる環境をつくらせよう！